



追分小学校での版画教室



追分中学校での公開研究会

業が展開されました。また11月21日と25日に追分小学校で図工の授業を開催。昭和36年から42年まで同校で教えていた池本良三先生を招き各学年の版画作りが行なわれました。

はじめ戸惑っていた児童たちはベテラン先生の話術に引き込まれ、楽しそうに作品の制作に専念していました。

『学社融合』事業を推進

11月14日 追分中学校で、町内外から約130名の先生やPTAが参加し、公開研究会が行なわれ、教育委員会が取り組みを進めている、学校と社会教育が融合し共に授業づくりを行う「学社融合」の実践が公開されました。公開された家庭科の授業では指導案づくりから地域の人々が参加し、生徒たちが理解しやすい内容で、「子どもと家族や周囲の人々」を題材に、中学生である自分と家族や家庭生活とのかわり、自分と周囲や地域の人々とのかわりについて考える授業が展開されました。



地震計を設置する観測坑をのぞく児童たち

大盛況の東胆振物産まつり

10月31日から11月2日までの3日間、小牧市駅前プラザegaoで東胆振物産まつりが行なわれ、町内からチーズや和菓子、野菜などの商品を取り揃えて4店舗が出店しました。



安平町産のお菓子を販売

最終日は町長が一日店長を務め、ごぼう1袋片手に「50円だよ！」と声を張り上げ、商品が完売するといった場面もありました。

「食の安全」や「地産地消」に対する関心の高まりが見られ、3日間の来場者、売上げはともに前年を上回り、連日品切れになるほどの勢いでした。

小さな揺れも逃さない

11月18日 北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センターの研究者たちによって、富岡小学校体育館裏に地震計を設置する作業が行われました。

近年の調査によって、石狩低地東縁断層帯と呼ばれる活断層が美唄市から安平町に至る主部約66km、千歳市から小牧市に至る南部約23kmに分かれ、長沼町のほぼ中央を南北方向に縦断していることが明らかになりました。断層帯の主部は、今後30年でマグニチュード7.9クラスの地震を起こす確率が0.05%～6%と予測されており、国内の主な活断層の中では発生確率の高いグループに属することから、集中的にこの活断層の調査研究をすすめることになり、9か所の臨時観測所を増設。その1か所にフモンケ川沿い地点として、富岡小学校が指定され地震計を設置することとなりました。

地震計は、深さ30メートルの観測坑を掘削して設置。データは回線を利用して、観測センターに伝送されます。GPS機能を利用し震源地を特定、また人体が感じない小さな揺れも察知し断層帯の活動を調査していきます。

設置作業を見学した富岡小学校の児童たちは、地震災害への心構えなどを再認識していました。

